

JR東労組バス関東本部申19号

## 「2019年度夏季手当に 関する申し入れ」

# 主旨説明を行う!

### 組合の主張!

- ☆2018年度決算は営業利益7億8,400万円を計上、会社発足以来初の合計が昨年比4億8,500万円プラスになっていることは大きな要素である。
- ☆営業費用の増加(減価償却費、人件費など)は基本的に将来へ向けた投資である。動力費の増加、汚染水対策等のコストを超える組合員の努力が好業績に繋がり、昨年以上の内容であるのは明らかである。
- ☆訪日外国人の増加を含めて、組合員は例年になく確実に乗客が増えていることを実感している。今後のオリンピック・パラリンピックに向けても重要な時期である。10連休となったGW輸送を乗り越えてきたが、最も気力と体力を使う今後の夏季輸送に向けてもこれまでの努力に報いるべきである。
- ☆バス業界の事故は本当に後を絶たない。徹底した原因究明とそれを元にした対策を立てる風土の醸成こそがこの業界に絶対に必要である。もう一つ重要なことは「人を大切にしない企業は人に起因する事故を必ず発生させる」ということである。企業に対する帰属意識は風通しのよい職場風土と労働条件・労働環境から生まれるものである。
- ☆要員不足のなかでサービスレベルの向上はお客様からも評価されている。社員の高齢化と次世代への転換期が課題の中、人材確保や企業の魅力の観点からも重要な位置付けである。
- ☆人件費や動力費を差し引いても、実質中身は昨年以上の物になっている。生活にかかる費用が増加する中、この間、契約社員B・臨時雇用社員の加算についても拘って議論してきた。5万円加算を要求する。これについてもしっかりと議論していきたい。

### 会社の主張!

- ◆高速線収入が史上初めて100億円を超え、皆様に非常に感謝している。
- ◆一般線については少しずつ上がっている。単体で見ると決して利益が出ている事業ではないが、地域に根付いたと考えると大きな力になるのではないかと考えている。改めて感謝している。
- ◆減益部分については、採用増、各種手当改訂により人件費が膨らんだもの、新車投入による減価償却費増、あと一つは我々にはコントロールできない燃料費の高騰があり、増収だが経費がかなりかかってしまって減益という結果である。
- ◆7億8,000万円については本当に立派な利益だと認識している。
- ◆増収減益と言うことを踏まえ、慎重に中長期的に見ながら検討する。業績連動という考え方は変わっていない。しっかり貴側と議論しながら、回答指定日に向かっていきたい。

# 日々の安全輸送・安定輸送の苦勞に報いるために 会社は満額で回答するべきだ!